

このたび、AVの世界から農業へ殴り込みをかけた高橋がなりです。

多くの人が「AVで成功した男が、癒しを求めて農業を始めた」というように思っているようですが、それはまったくの誤解です。むしろ、僕は「農業」というものに大きなビジネスチャンスを感じたから、この世界にやってきたんです。

農業の世界はあまりにもレベルが低いです。早くAVを見習っていい業界に変わればいいのに。だから、こんな僕にもチャンスがあるんです。

僕はAVの世界に入ってきたときも「AVが大嫌いだ」と公言していましたが、けれども、そんな僕がAV業界の健全化にもっとも貢献する男となったんです。それは、なぜでしょう？理由は簡単です。僕がAV業界とは無縁の人間だったからです。

僕はみなさんのように農業ひと筋で生きてきた男ではありません。でも、外から入ってきた人間だからこそ、感じることもあるんです。

この世界に足を踏み入れて、農家のみなさんがとても真剣に農業に取り組んでいることを知りました。自分の仕事にプライドを感じていらっしやるのもよくわかります。

けれども、ほとんどの人が「オレはマジメにやっているんだ」とか、「自分にはプライドがある」という

ことで現状を肯定してしまつて、昔から存在している多くの問題を何ら解決しようとしていないんです。

これは、僕が入る前のAVの世界とまったく同じ構造です。有名な監督も男優さんも、「オレにはプライドがあるから」と、世間の見方とのズレに目を向けていませんでした。

自分の仕事にポジティブであるのはとても立派なことだと思えます。けれども、僕は当初、業界にいなながらも、AVに誇りが持てませんでした。だから「AV側の視点」ではなく、「世間の論理」で、業界に多く存在していた矛盾に気がつくことができたし、世間が納得いくような業界の改善ができたんです。

たとえば、今の農業で言えば、収入が不安定で、休みがなかなかとれない。深刻な人材難を抱えて、嫁の来てもないし、何よりも世間から、「ダサイ」、「カッコ悪い」職業と思われている……。

みなさんがいくらプライドを持っていようと、世間の「農業」に対する認識はせいぜいこんなもんなんです。これだけ問題点があるなら、変えればいいじゃないですか？何で変えようと思わないんですか？

みなさんがやらないから、僕が変えるんです。それが、僕がこの「農業」という未知の世界に足を踏み入

れた理由なんです。

さっき言ったように、僕が入ってくる前のAVと今の農業の世界はともよく似ています。本来、いちばん偉いはずの「ものづくり」を担っている生産者が主人公になれずに、「流通」を握っている人間だけが儲かるいびつな構造。これを変えるための方法が僕にはあります。具体的にはおいおい触れますが、AVの世界で成功した方法を農業用にアレンジすれば簡単です。

さて、厳しいことばかり言いましたが、僕は農業の世界に悲観はしていません。先日、「農業青年クラブ連絡協議会（4日クラブ）」の講演に呼ばれて僕は確信しました。

——農業は変わる、と。

だって、まだ農業で実績を上げていない僕を呼んでくれる時点で、改革は成功したも同然ですよ。だから、「農業を変えたい！」とヤル気に満ちた若者たちとともに、平成の百姓一揆の先頭で錦の御旗を振りましよう。僕がその先頭に立ちます。僕はAVの世界では、成功を手にした猛な「虎」でした。けれども、農業の世界では、自分のことを謙虚に「猫」だと思っています。

でも、「猫」が「虎」に変わるのもそう遠い日のことではないでしょう。さあ、僕の手腕にご注目を！

国立ファーム有限会社

高橋がなりの

猫の舌

~早く「虎」に変わるんだ!~

第1回

農業の世界も「AV」を見習うべきだよ！